

3月13日

小倉先生述

6号⇒4
 1902年以前

□ これから明治末期、およそ明治35年(1902年)から昭和

初年まで^{9/6}~~に~~~~おける~~本格的な数学研究のあらまし_をについて、

申し上げることにいたしました。けれども、それより

以前のもので、~~それは~~めぼしいものが多少ありますから、

~~前も~~ 明治35年以前の独創的な研究と思われもの

ほかに、紹介的なものとして注目すべき論文や著書ない

を、少しばかり加えておくことにいたします。

研究論文として、は、まず藤沢先生がクリスト

フル ~~指導~~ のもとで研究されたドクトル論文、熱伝

帰国後の
 導における級数の研究 (1886年) と「楕円函数の掛算の
 研究」 (1893年) である。
 研究 (1893年) それに沢田吾一先生の「代数曲面上のア
 シンポトーチクラインの研究」これは東京数学物
 理学会の懸賞論文に当選したもので、1891年に発表
~~その内容のいかんは~~ にかく、当時の注目すべき幾何学

また
は 1900年ごろから長く続いたための ~~それは~~ 中学校

の森吉太郎という先生の 根函数の研究 ~~というのがある~~

~~あります~~ これは 1902年の研究で その ~~論文の~~ 価値はとに

かく ~~それは~~ ~~おもしろい~~ 独創的 ^と 変 わ た も の で ~~あります~~

この ~~ま~~ ~~ま~~ ~~ま~~ ^付 当時の研究についての参考文献として ~~ま~~ ~~ま~~

三上義夫さんの[✓]極東からの数学論文[✓] (1910年[✓]ライ

ブク[✓]と[✓]英文) という本が^あ~~参考~~あります[✓] ~~これは~~明治

(1885~1907)

18年から明治40年まで[✓] ~~1885年から1907年~~

冊^の日本語^のと~~書~~ ~~は~~ ~~た~~ ~~お~~ ~~も~~ ~~の~~ ~~論~~ ~~文~~ ~~お~~ ~~よ~~ ~~そ~~ ~~50~~ ~~篇~~ ~~を~~ [✓]翻訳的に

紹介 ~~した~~ ~~もの~~ ~~で~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ [✓] ~~は~~ ~~た~~ ~~当~~ ~~時~~ ~~に~~ ~~あ~~ ~~っ~~ ~~た~~ ~~は~~ [✓] 欧

文で書かれたもの ~~の~~ に水準の高い ~~もの~~ のがあつた ~~。~~

~~この書物は欧文のものを取らなかつた~~ のですから ~~。~~

この本は

~~この書物は欧文のものを取らなかつた~~ のですから ~~。~~

~~また~~ 水準の低い ~~もの~~ を西洋に紹介したことになる ~~。~~

~~た。~~ ~~そのために~~ 内外の諸学者から非常な悪評をこいむ

~~つた~~ ~~本であります。~~ ~~けれども~~ ~~ほと~~ もとの論文を探

~~つた~~ ~~本であります。~~ ~~けれども~~ ~~ほと~~ もとの論文を探

~~つた~~ ~~本であります。~~ ~~けれども~~ ~~ほと~~ もとの論文を探

~~つた~~ ~~本であります。~~ ~~けれども~~ ~~ほと~~ もとの論文を探

数論 ~~の~~ は テリクレー を 藤沢 さんが、アーベル を 三

輪 さんが、ガウス を 菊池 さんが、クンマー を 物理学の 長

岡半太郎 さんが 英訳 されたもので、~~幾何学~~ 幾何学 の ほうは、

非ユークリッド幾何学 の 基礎的 な 論文、すなわち ロバチ

とボアイ

フスキー を アメリカ の ハルステッド が ~~英訳~~

~~ポアソンのハルステッドが訳したのも~~ リーマンをイギリス

スのクリフォードが訳したもので、こういう外国人の英

のせしめ

訳も載せた。またそういう意味では藤沢教授のセミナーリ

ー演習録 5冊 (1896-1900) も挙げられましよう。この

小冊子

~~藤沢教授のセミナー演習録~~には代数のことが非常に多

~~この本~~ ^いの ですが ~~が~~ [△]全体として特に注目すべき ~~ものは~~ ~~明~~
~~過30年~~ ~~す~~ ~~と~~ ~~小~~ ^も1897年の ~~1冊~~ ~~で~~ ~~は~~ ~~な~~ [△]には [△]林先生の
[✓]eπの超越 [△]吉江先生の [✓]等角写像 [△]高木先生の [✓]ア
 ーベル方程式 [△]が載 [△]つて いる の で ~~お~~ ~~ま~~ ~~す~~ [△]。 また [✓]数学
 協会雑誌 [△] という雑誌は ~~相~~ ~~当~~ ~~有~~ ~~力~~ ~~な~~ [△] いわば及大学系と

相当有力な ^{として} もいえるような数学者の機関雑誌 ~~で~~ ~~明治20年から26年~~
~~まで、~~ ~~すなわち~~ 1887年から1893年まで発行され ~~た~~ ~~相~~
~~当有力な雑誌でありました~~ ^が、独創的なものよりむしろ
紹介として注目すべき記事が多か ^が ~~つた~~ のです ~~が~~
遠藤政之助先生 ~~の~~ の名 ~~は~~ は記憶されて ~~いる~~ しいと思

い

ます。また当時の書物として、1898年の高木

先生の新撰算術、新撰代数学、林先生の新撰幾何

学。この3冊がすぐれた学者の青春の書として挙げ

てよいと思います。1901年藤沢先生が書き

なされた。これは

1901年藤沢先生が書き

なされた。これは

1901年藤沢先生が書き

なされた。これは

~~者会議~~ ~~でも~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~い~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~か~~、~~これ~~に^に ~~藤沢先生~~が出席さ
 れた先生の報告で~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~が~~、~~その~~ ~~と~~ ~~き~~ ~~の~~ ~~模~~ ~~様~~ ~~を~~ ~~書~~ ~~か~~ ~~れ~~ ~~た~~ ~~も~~ ~~の~~ ~~で~~ ~~す~~ ~~か~~、~~こ~~ ~~の~~ ~~中~~ ~~に~~
 はヒルベルトの画期的な[✓] 将来の数学問題[△] ~~を~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~中~~ ~~に~~ ~~紹~~ ~~介~~
 されて~~こ~~ ~~の~~ ~~目~~ ~~的~~ ~~は~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~ま~~ ~~も~~ ~~の~~ ~~こ~~ ~~の~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~が~~、~~こ~~ ~~の~~ ~~中~~ ~~に~~^{もう一つ△}
~~ある~~ アメリカのイール大学で研究中^の ~~こ~~ ~~の~~ ~~物~~ ~~理~~

学者 ~~木~~ 木村駿吉先生は [△] オランダのモレンブロックと ~~→~~

1895年

~~二人~~ 二人で [△] 四元数の研究を進めるための国際的な学会 [△]

を創立して [△]

の第一歩 ~~を~~ [△] ~~たのび~~ ^七 ~~た~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~これは~~ ~~当時~~ ~~の~~ ~~世界~~ ~~数学~~

英米

界に [△]、少くとも ~~北~~ ~~米~~ ~~の~~ ~~数学~~ ~~界~~ ~~に~~ ~~は~~ ~~か~~ ~~な~~ ~~り~~

大きな影響を与えた ~~の~~ ~~で~~ [△] ~~た~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~木~~ ~~村~~ ~~駿~~ ~~吉~~ ~~先~~ ~~生~~

は間もなく帰国されて、仙台のホ二高等学校の物理の教

授となり、~~書いたそのとき~~、四元法講義 (1897年)

ホ1冊 (総論) を出されましたが、ホ2冊以後の本論は、

予告されていたながら、~~→~~ 出版も見なかつたのは、~~非常~~

~~惜~~しいことです。今日 読む でも ~~非常~~ 興味深々たる

~~深まる書物である~~ 木村先生は^{という}間もなく海軍技師となり

1901年に海軍式無線電信を發明して そのほうで大

きな仕事をなさ^つた方です

最後に 数学史の方面では まずイギリスのホール

数学史 (1888年)が間もなく中川将行先生によ^つて全

訳されました。~~これは~~数学協会雑誌)に連載されたのです

(1890~92) ^が ~~これは~~当時としては名訳といえるもので

和算家

朗々として読むにたえる文章です。また遠藤利貞さんの

大日本数学史 これは1893年に脱稿し、96

年に出版されました。これは初めて大成された和算史の

本で ~~あり~~ ます。それから菊池大麓先生 ~~が~~ ~~の~~ ~~算~~ ~~法~~ ~~の~~ 遠藤さ

算法を忠実に現代の記号に直して

んなどの力もかりて、~~円理の紹介をやった~~ ~~か~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~す~~

~~和算~~ ~~を~~ ~~傳~~ ~~へ~~ ~~る~~ 英語の論文を発表された

~~現代的な翻訳を~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~ ~~(1895-99)~~ ~~。~~

~~のが数学史のほうのおもしろい仕事でありました。~~

1877+

II

201903年以後の業績

即全角コロスル

に入ら^るて^います。 ~~この~~ ~~本論~~ ~~と~~ 明治36年(1903年)か

ら昭和5年(1930年)ころまでの数学界における主要

な人^々と研究^{について} ~~の~~ ~~と~~ ~~も~~ ~~申~~ ~~し~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~。~~

この² ~~時~~ ~~代~~ ~~の~~ ~~初~~ ~~期~~ ~~に~~ ~~は~~ ~~。~~ まだあまり専門^的に^分化^{され}て^いない^でい^ます。

いろいろなことをや^る ~~た~~ ~~学~~ ~~者~~ ~~も~~ ~~お~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~ たとえば林

鶴一先生などは、数学のあらゆる領域、数論、代数、解

析幾何、応用数学、数学教育、数学史^のどの方面にわた

って、^{みぢかぢかの} ~~研究~~ ^{を残し} ~~しました。~~ ~~最後の数学史の~~

~~は、(晩年は力を注がれるよ、にたりましたけれど)。~~

~~と、かくこの新数学の全領域にわたって、こういふ仕事を~~

~~されたという方がおられたのです~~ → そういい方はだんだん
かい

く少なくなつて ~~ま~~ ま 多少の例外はあるに ~~ま~~ ま ても ま

数学者が専門化して い つ た ~~ま~~ ま のは ま ~~ま~~ "およそ中 /

次世界大戦のころから ま あるいはその直後のころから ま

見ていいだろうと思います ま

じつは
 □ それから、これから申し上げます時代についての十分な資料を、たかいま私は手許に、
~~いま私の手元に十分の資料を持~~ていないのです。それ

時代の研究
 でこの ~~を~~ ^{正確}にお ~~話~~ ^傳えるとい ~~う~~ ^は ~~は~~ ^いまの ~~私~~
~~に~~ ^また

には不可能でありま ~~す~~ ^思い違 ~~い~~ ^や ~~ま~~ ^る ~~は~~ ^た
~~た~~ ^とん ~~で~~ ^も ~~な~~ ^い
~~な~~ ^こと

くさんの誤り ~~が~~ ^を ~~あ~~ ^犯るかも (れ) ませ ~~ん~~ ^心 ~~が~~ ^ある皆 ~~様~~ ^{さん}

^示の~~ご~~教~~を~~を願いたいと思^{ない}います。またすぐれた方々の研
 究~~の~~に^{交えて}私自身の^念しい研究をも挟んでおくことをお許
 し願います。ただそれは私の思い出のためばかりではあ
 りません。~~また~~自分の^念しい研究は^念しいなりに^念できるだ
 け~~自分の~~の~~位~~を~~きりさ~~きりさしておくほうがよかり
_置

う ~~ん~~ と思うからで ~~は~~ す \triangle

1577+

~~数学論及び代数学~~ ^{80全角→4022} ⁶³⁼⁴¹

227 \square ここで \triangle ~~は~~ ^{まず} ~~数学~~ ^{数学} ~~論~~ ^論 ~~及~~ ^及 ~~び~~ ^び ~~代~~ ^代 ~~数~~ ^数 ~~学~~ ^学 から始めましよう \triangle

わが国における数論及び代数学の近代的な研究は \triangle 高木

貞治先生に始まります \triangle 高木先生は帰国 ^{しまさで} ~~の~~ ^{ドイツから} \triangle 東京

長い間

大学で研究と講義を続けられました。先生の最も輝か

い業績は、いわゆる類体論、相対アーベル数体の理論

(1920年)であります。先生がアーベル数体の研究

もおやりになりましたのは、遠く1903年の学位論文が

ら始まるまででありました。それが1920年に至

て大成したわけであり、京都大学では園正造さんが

早くから代数学を専攻され、群論の立場からイデアル

論の公理的な研究 (1917、18、24) も発表されており

ます。これは「抽象代数学」の才人としてエミー・ネ

ーター女史の研究に先駆けたものと高く評価されて

おります。また京都大学出身の米山国蔵さんは連続的
 点集合論△も1918年に出されました~~ておりますが~~△。これは
~~時~~日本における先駆的な研究であつたと思いま
 す。米山さんは後に九州大学の教授となつ~~なつ~~て、1925
 年から▽数学の基礎△という本を出経されました。~~これは~~が

~~方~~ 研究的であると同時に、~~他面は~~ 教育的な面

^{白い} ~~長持~~、~~てい~~る ~~り~~は ~~著~~述で ~~あ~~り^{した}。

□ 東北大学 ~~に~~ ~~ま~~ ~~さ~~ ~~す~~ ~~に~~ は高木先生 ^{門下の} ~~後継者~~ 人

~~ま~~ ~~ら~~ 藤原松三郎先生がおります。藤原先生は群論の研

究 ^{から} ~~ま~~ ~~を~~ ~~発~~ ~~せ~~ ~~ら~~ ~~れ~~ ~~ま~~ ~~す~~。 留学からお帰りになると、 1911年。

~~東北大学~~ ~~教授~~ として代数学と解析学[?] おもに 講義
 をされ^た ~~たので~~ ~~先生は~~ 博学をもちつて鳴~~り~~ ~~です~~ ^{た方} 代数学
 方面でもいろいろな研究をされ~~てお~~ ~~ま~~ ~~す~~ ^{したか} ~~り~~ ~~も~~ 特
 にめづかしい一つの仕事~~は~~ ~~先生は~~ ミンコウス
 キーの [✓] ~~ディ~~ オフ [✓] ~~フ~~ [✓] ~~ント~~ ス近似論[✓] (1907年) ~~また~~ [✓] ~~数~~
 および

左端についてかいてます森本君の論文は

吾君の「テイオフ」ントス近似の研究 / 1926年に発

表されま~~た~~たが^たこれはこの方面の~~一分枝として現~~
~~た~~た^たで^す

~~わ~~わ~~た~~た~~の~~のでありま~~す~~森本君は中等程度の農学校も出^る

~~れ~~れ~~て~~、~~そ~~そ~~の~~の~~り~~り、独学で数学も研究されて、林先生に見出

当時
されて、^た東北大学助手とな^つておられたのです。

一方、東京大学では、高木先生の系統は若い世代に継

がれまして、1930年^{前後}からは、末綱恕一さんの解析的整

数論^や、正田健次郎さんの抽象代数学^や、彌永昌吉

さんの代数的整数論^や、さらに森島太郎さんの^{フエ}

ルマ一大定理^左の研究^左、~~続々~~と現われるようになりま

した△

□ ここでちよ△と高木先生^{について}の^を思いを~~に~~ ~~して~~ ~~お話しする~~こ

と^お許し~~し~~ 下さい△ 1920年9月下旬にフランスの~~国~~^ス

トラスバールで国際数学者会議が~~開~~かれました△高木先

生は類体論^{あり}の論文も日本で~~発表~~される~~と同時~~△ ~~に~~ ~~国~~
公に ~~て~~ ~~か~~ ~~ら~~

際数学者会議でその概要も発表されたので、~~あります~~、[△] しました。

のとき、[△] その会議に日本人として出席したのは、[△] 高木先生~~だけ~~ ^{だけ} ~~だけ~~ だけ

と私の二人でしたか、[△]
生のほか、私しかなかったものであります、~~私の見ま~~

~~たところ~~、高木先生はスイスの学者フエターとよく

一緒になつて話をしておられ、~~ました~~、[△] 何しろごく短い
[△] ~~様子~~ ^{様子} 様子でした。

~~その~~ ~~藤原先生~~ ^が ~~この~~ ~~お~~ ~~し~~ ~~や~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~した~~ ✓ この 10

何年間 ^へ 高木先生は何も考えているのかと思 ^て ^た ^か ^ら こ

のことで ^あ ^ら ^な ^ら ^ば ^た ^だ ^ら ^な ^ら ^ば ^と 感慨深げにお ^し ^や ~~ま~~ ^す

~~た~~ ~~その~~ 言葉を ^は ^私 ^は ^今 ^も ^も ^忘 ^れ ^る ^こ ^と ^が ^で ^き ^ま ^せ ^ん [。]

これ ^も [。]

~~これ~~ ~~も~~ 私のように ~~な~~ ~~る~~ ~~者~~ ~~に~~ ~~は~~ ~~。~~ ~~。~~

^{など全然}
 ● その詳しいこと ~~は~~ わからずに ~~い~~ たのですが、^い それか
 ら数年た ~~ち~~ て、^い 1928年ころと思います、^い ドイツ●
 数学会 ~~の~~ 年報 ^い ヤーレスベ ^り ヒ ^テ にハーセの報告が出まし
 て、^い それに高木先生の ^{お仕事} ~~研究~~ がいかに世界 ~~の~~ 第一級の
^{もの} ~~仕事~~ であ ^い たかが ^い 詳しく説かれておりましたので、^い ^い ^い

によ^へて私~~は~~ ~~ほんとうに~~初めて目を覚ましたのであ

りま^す ~~す~~.

1行アキ

● ^{81全第100人 63才} □ 解析学

← □ 解析学のほうでは、^関 ~~函~~数論の方面は藤沢先生に~~ま~~

~~ま~~ ^や 微分方程式 ~~や~~ 変分学などは吉江先生によ^{つて} ~~る~~

~~本~~ 紹介され^{ました}~~たのであります~~。吉江先生はドイツから帰

国されるその前後に、変分法を用いて特性帯の微分方程

式を得る研究も、マテマテシ、アンナレンに発表

されております。東京大学ではこの二人の方によりまし

て解析学が伝えられ、数論の方面からは竹内端三さん

数論

~~や~~ 辻正次さんのような後継者が生まれま~~す~~ ~~た~~ ~~き~~

しい世代の~~な~~ ~~は~~ ~~あ~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~
新 ~~々~~ 清水辰次郎さん ~~の~~ ~~「~~有理型函数論~~」~~ (1929年) ~~、~~ 吉田

~~の~~ ~~研~~ ~~究~~ ~~の~~ ~~一~~ ~~部~~ ~~を~~ ~~な~~ ~~し~~ ~~て~~ ~~い~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~
洋一さん ~~が~~、あるいは功力金二郎さん (後に北海道大

学) ~~の~~ ~~「~~抽象空間の研究~~」~~ (1930年) ~~、~~ ~~の~~ ~~よ~~ ~~う~~ ~~な~~ ~~新~~ ~~し~~ ~~い~~ ~~研~~ ~~究~~ ~~が~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~わ~~ ~~れ~~ ~~て~~ ~~参~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~

~~一~~ ~~部~~ ~~の~~ ~~研~~ ~~究~~ ~~が~~ ~~現~~ ~~わ~~ ~~れ~~ ~~て~~ ~~参~~ ~~り~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~た~~ ~~。~~ 吉江先生の系統では

直接の~~影響~~^{受けた}と~~いうこともあった~~ → 後継~~と~~^{まし}として~~は~~^は南雲道夫

さんの微分方程式に関する有名な研究(1926年)~~の~~^はそれ

から福原満洲雄さん^{左どの}の研究が~~生まれて~~^{つづいた}ので~~は~~^{した}

同じ東京大学出身ですが~~は~~^は専門方面を異にした豊田亀

治郎さんの~~母~~^母函数の理論~~は~~^は(1918年)も~~は~~^は解析学上の

研究として注目せらるべきもので~~し~~^はう~~は~~^は

京都大学では~~は~~^は解析学は河合十太郎先生と吉川実夫先生

~~...~~

と、~~初期~~ 初期の出身者の

講義と研究 ~~は~~

~~は~~ によつて、~~継がれたのでありましたが~~ 後継者 ~~として~~

和田健雄さん

が行われま

す。

ところが、

惜しいことに活動

的を中心人物

~~は~~ の

吉川

~~美大~~

先生

(1878~1915)

が

~~1915年になく~~ 夭折さ

れましたので、松本敏三さんが入ることになりました。

和田さんと松本さんはフランス流の数学に親しみを持っ
ておられましたか。

~~は~~ その ~~点~~、岡潔さんのような独自の人物が現れ

方面から

来た ~~.....~~ ^の は ^{まことに} 京都大学として ~~.....~~ 著しい現象
 だと思われ、
~~.....~~ また ^{また} 微分方程式に関する岡村博さんの研究
 は ^は 少し時期 ^は 遅れ ~~.....~~ ^{ます} かが ^は これは ~~.....~~
~~.....~~ 京都系というよりは ^はむしろ東京の吉江系統の
 仕事として ^は 高く評価されるべきもの ~~.....~~ ^{でし} ^は ^ら ^の ~~.....~~

□ 東北大学では、東京大学出身の林、藤原、掛谷の諸先

生が解析学を講ぜられました。が、留学から^おり^にな^たは^かり

^{先生}の藤原~~教授~~は指導者として特に著^し~~った~~その指導の

もとに小島鉄造君の \checkmark テ^リク^レ一級数の収斂条件^の研

究は、9/4年に大学の卒業とほとんど同時にでき上^が

た最も著しい業績で~~あ~~したか、小島君は惜しくも、

921年に夭折されました。掛谷先生は独創的な性格の持

主で、その \checkmark 連立積分方程式の研究(1916年)以来、

いろいろなすぐれた業績をあげておられましたか、1920

年に東京に帰られましたので、岡田良知君が、後には、

らに泉信一君が後継者として教室の人々を~~な~~たのてい~~た~~
 た。

~~た~~ 私は大阪に^来りまして、^か近似^関数の理論 (1919

年) 補間法の理論 (1920年) を研究しました。

前のものは ^{発表されて、}戦時中にオーストリーのハーン^が ^{より読み得た} ^た ^が ^す ^く ^い ^れ ^た 研

究と重複するところがあります。 ~~それ~~ ~~も~~ ~~戦~~ ~~時~~ ~~中~~ ~~で~~ ~~読~~ ~~ま~~

~~ことができなかった~~ ハーシンの論文でした。 ~~と述べて~~ 後の
~~1920年~~ 研究はごく不完全なもので ~~おっしゃる~~ ^{した} かつ 尙も
 なく 岡田良知君によ^りて ~~述べられ~~ ^{めら} れ 特に 1922年からはテン
 マークのネールンドによ^りて ~~述べられ~~ ^り 補尙級数論 (1926
 年) ^{に仕上げさせ} ~~の研究を見た~~ ので ~~おっしゃる~~ かつ こういう意味におきま

17 私の いく 不完全な論文 ~~が~~ ~~の~~ ~~動機~~ ~~を~~ ~~与~~ ~~え~~ ~~た~~ ~~と~~ ~~い~~ ~~う~~

~~こと~~ ~~は~~、 多少 先駆的 な意味 ^{を持つ} ~~が~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~か~~ ~~も~~ ~~し~~ ~~れ~~ ~~ま~~ ~~せ~~ ~~ん~~

また

~~東京大学の出身者として、統計方面の数学者の電~~

~~田豊治朗さんの「母函数の理論」(1978年)これは解析~~

~~学上の研究としても注目せらるべきものでありました。~~

~~ト~~

P. 42
指定のところに
入る。

□ 長がいま申しました)

~~これは~~ 小島君は、東京高師^{を経て}の~~本~~身で、それから東北大

学に入られたのですが、~~その東京高師時代の~~先生の国枝

元治先生がケンブリッジ大学のハーティ^許の~~レ~~テ

~~イ~~リクレー級教の一樣收斂^{(1916年)について研究されました。}~~基準の決定~~

~~16年に出されました。~~これは弟子のほうから~~研究~~先~~出~~

になりましたから、40才を過ぎて
 て、先生のほうから後、~~また、しかも相当の年配に~~なつて
~~たしとがら~~は、立派な教師
 からあつただけの仕事を、~~つ~~られた国枝先生、~~業績はまこと~~
 であつたと思ひます。
~~に買われるべきもので、非常に興味深いことだと私は思ひ~~
~~ます。~~
 □ 二二で吉江先生についての思い出 ~~を~~を一つ申し上げ

^た
~~先生~~ 御本を 読 ~~ま~~ ~~して~~ ~~いた~~ ~~た~~ ~~が~~ ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~その~~ ~~中~~ ~~に~~ ヤコ
んで いま ち と

^{ヤコ}
ビ ~~ー~~ マ イヤーの解法というの が ~~ま~~ ~~す~~ 。 このマイヤー

について 先 先生 は ヨハン ト ビアス マ イヤー (1723

-1762) (?) とう書かれておりました 。 これを讀みま

す ~~と~~ 私は ハ と 思 い ま し た の で ~~ま~~ ~~す~~ ~~。~~ ~~それ~~ ~~を~~ 少し調べま

短
短
短

(7 ~~から~~ [△] これはライプニッツのアドルフ [○] マイヤー (18
 39 - 1908) が正 [△] (いい [△] 字せ) そう考えられるか [△] その
 理由 [△] について [△] 先生に申し上げました [△] ~~そのこと~~
 折り返し [△] ~~先生から~~ [△] 丁寧なお礼のお手紙 [△] をいただきました
 が [△] それから数日 [●] 後に先生は急 [△] ~~病~~ [△] 永眠されたので [△]

鄭重

(昭和22年12月6日付)

左か
の

た DD お手紙には 外生の如き愚鈍なる者は頑健なる者
~~は~~ ~~私に~~ ~~と~~ ~~して~~ ~~非常に~~ ~~深~~ ~~い~~ ~~もの~~ ~~が~~ ~~ある~~
は でありましたのに DD ~~これは~~ 刻を思い出さ
のであります

157P7

^{全角 2022} ~~63 = 4~~ 幾何学

幾何学の講義と研究を専門としましたのは、まず東大
の中川銓吉先生から始まります ~~これは~~ ~~道学~~ ~~から~~ ~~お~~ ~~帰~~ ~~り~~

になつた 1907年からのお仕事で ~~まじまじ~~ ^{した} (けれどもそ

の一两年前に微分幾何を ^{京大} 東大で初めて講義したのは吉江

琢児先生 ^な ~~あ~~ のです) 中川先生の学位論文は ^の ~~非ユークリッド~~ 幾何学 ^の ~~研究~~ (1910) でした。 吉江、中川両先生に学 ~~び~~ ^ば ました。

田忠彦先生は ^{され} 幾何学を専門と ~~して~~ 東北大学の創

立当時から ~~幾何学~~ ^{つづけられ} 研究を ~~されました~~ ^{1921年23か} した。また後 ~~に~~ 京都大

の
~~研究~~
研究
(1910)
でした。

学自身の高須鶴三郎さんと相並^ん~~び~~で、^へ東北大学にお

ける~~幾何~~ ^{学の}幾何 ^{なり}中心と~~ま~~ ^{なり}その中から河口高次さ
^{研究}

んな^りが生まれてきたのであります。^へ窪田先生^の幾何学

における興味^は多面的でありまして、~~初等幾何~~ ^{より}古典的~~な~~

~~もの~~から射影微分幾何^へ、^共形微分幾何という方面に移~~る~~
^新まで

2水と對照的に

及びました。

~~といわれました。美しい研究が多いのですが、多少断片~~

~~的を占めるものもありません。~~ 高須さんは ~~これに及ば~~

尚も左く

~~は~~、球微分幾何^の独自の基本原理^{による} ~~の~~系統的^な研

究に精進された^の ~~で~~ ~~した~~ 藤原先生とその周りの人^達 ~~の~~ ^{白円形曲} ~~に~~ ^{にお}て研究された

線論^の大域幾何学研究^の先駆者^に ~~が~~一度 ~~を~~ ^にあげておしま

○高須さんも生んだ京都大学では ^に幾何学の研究は西内

私は東北大学の初期に古典的左
微分幾何の研究から、交轉の微分幾何
(球幾何学の初期の)に進みました(1916年)

であります。 ~~和~~ (大阪におさま) 1918年に力学と

参りまは

空間における

の関連から、点、線結合 (コンネックス) の理論を扱いま

した。この理論は半分ほどアメリカのカスターの古い研

究しておりが、1927年に

究 (1903年) と重なり合、たよりが、~~後大~~

~~またこの方面の研究は~~ オランダの シュール (フ)

が、私共の研究をつづけ、さし
ン ○ テル ○ ウェルテン(下) による連続された

~~ソ連~~ ソ連のシント ^ツフによつて研究されております。

□ ここで幾何学の思いあつて一つだけ申し上げました。1910
年ごろでした。クラインの『高等幾何学概論』を読んでから、林先生
向つてこの本を激賞したところ、先生から『クラインを読むと豪傑に
なるよ』と、さんざん冷かされました。化学から数学に転換した私には
数学の『問題』を解くことが下手なばかりで、いわゆる『問題』というの
あまり興味をおこさないものでした。

1行Pキ

● 応用数学
□ 番号コード

□ まず統計のことで ~~あ~~すが、第1次大戦ころまでは

統計法というのはい、おもに法学部、経済学部、商学

部でやる学科で、大学の数学科、

小学校や中学校では、統計を取り上げるこゝ

あまりなかつた。 (しかし東京大学では)

本邦死亡生残表 (1888年) を作り上げた藤沢先生

早くも
~~が~~その翌年から法科大学で統計法の講義もやり出したの

で~~ま~~す。そういう関係からか、東京大学の出身者の

相当

中からは~~な~~統計や保険方面に進出した方があります。

~~その~~中でも亀田豊治朗さんのお仕事は高く買われるべきも

す。統計と関係の深い~~学~~科では、~~のであります。か、さきに申した通り、日函数の研究~~

~~(1918年) は解析学的にもすぐれたものと思っております。~~

~~そのほか~~ → 渡辺孫一郎さんの ✓ 確率論の研究 (1919
年など)

に行なわれましたし、また東北大学の出身者 ^{から} は 成實

(名古屋高商)

清松君の統計研究が

あります

^{はじめ} ~~1921年~~ ボンドン大学の ^{カール} ヒー ~~ア~~

(1921 ~ 28)

^{に招き} ~~スンのセミナー~~ 行なわれました

23

その他

~~また~~ 東京大学では 経

経済学部出身の佐々木道雄さんが、^會統計学者と~~な~~ま^りて、

1920年のころから商業数学を専攻されておられます。私

は1917年東^大大阪医科大学の予科の数学の講義に^分統計

法を取り^ま入れた縁故から、^統統計的研究法^法(1925年)~~と~~_{とい}

~~書きました。これは非常~~初等的で教育的な著述であり
本を書きました

したが、
~~また~~ ~~これ~~ ~~は~~ 幸いにして 数学界や 数学教育界 は ばかり である

く、 社会科学者の 向に ^も 広く 読まれた ^よ ~~ので~~ ~~あり~~ ~~ます~~。

□ 次に、 応用数学の 他の 方面 ^{とし} ~~は~~、 物理 ^学 や 天文学 ^{や工学} ~~と~~

関係し ~~て~~、 力学の 解析的研究が ^前 ~~戦~~ ~~後~~ から 行なわれて

おりました。 ^{近代的な} ~~と~~ ~~ころ~~ ~~が~~、 力学の 幾何学的研究 ~~と~~ ^い ^う ^の ^は、

さきにも一度出ましたアメリカのカスナー ~~カスナー~~ から始

~~まる~~ ^{うた}もので ~~あり~~ ^{はじめ}すか、私はカスナーの研究からヒント

を得まして、^{および}保存力場 ~~における~~、~~また~~ 不可逆的力場にお

ける質点の径路 ^{(1915~20年) を扱いました。} ~~この間のものを1915年から20年に~~

~~わたっておりました。~~ また、質点力学の幾何学的研究 [↑]

直線幾何学の立場から

(1918年) ~~もやりました~~ ~~たが~~ ~~これは~~ は先ほ^のと~~述~~べましたコ

ンネ^のクスの理論と関係 ~~ある~~ もので ~~述~~べます^の もう一

つ流体力学の方面で^の潮汐の理論について(1920年)^を書^き

~~ました~~
~~たものであります~~ これは連分数の理論を応用する^の

証明の誤^のている^のが^は連分数論に詳い
で~~述~~べます^が 私の~~非常に不完全な論文~~ ドイツのペロ

この月々もまり、~~70~~ 70 生 生 か い (1921年) ので、私
~~の~~ 親切 に訂正と補遺を加えてくれました。~~その~~
 の結論だけは生きかえ、た ので、い た
~~の~~ いや ら 満足 を も の に な り ま し た。最後に私は相対性理

論 に対する研究も、1920 年 から 2 1 3 年の 間 に ま し た。
の 晩 秋 に ま し た ら な ら な い ま し た。

192³ 年 に ~~その論文も~~ 書き 上 げ ま し た が、その 中 の
に お け る 点 の 力 学 (南 東 大 震 災 の た め 1924 年 印 刷) と い う
~~それはアインシュタインの相対性理論における力学の論~~

のかありますか、これを
~~文であります。ところが、この論文は、当時数学に~~
~~入れ~~ 入れかかるとして、
~~属する。か、物理に属するのかわからないで、~~ 数学委員
 員の吉江先生と物理委員の佐野静雄先生が私の前で
~~自分~~ いろいろ審査をした結果、~~これ~~ 数学輯報
 に載せないので、物理学輯報に載せることになりました。

これは私が欧^文で書きました、数学史以外の論文の最後の
~~これは非常に~~思い出の深い話であります。のりのあつで
 この審査も私にとりましては、いたる ~~ト~~ ~~ク~~